まちあるきの注意点

※個人住宅や敷地には立ち入らないでください。

- は、歴史の説明などが記されている標柱や碑を表します。
- は、旧町名の標柱を表します。
- は、お食事処を表します。
- は、ふぐが食べられるお店を表します。
- は、土崎神明社祭に関連するスポットを表します。
- は、伝統的な造りの建物を表します。
- は、木かげで一休みできそうな大きな木を表します。

このマップは、市民がまち歩きをして作成しました！

市民のみなさんに地域の文化財・文化施設をもっと身近に感じてもらいたいと、文化財イラストマップを作成しました。

マップ作成のためのワークショップでは、23名の市民のみなさんが実際にまちを歩いて情報を集めました。このマップには、ワークショップ参加者が注目したものやコメントなどを盛り込んであります。

このマップを持ってまちを歩き、地域の文化財・文化施設を楽しんでください。

北部市民サービスセンター　キタスカ
◇9:00～21:00
◇秋田市土崎港西五丁目3番1号　☎018-845-2261

ぼくとライブラリー土崎図書館
◇平日10:00～19:00／土日祝10:00～17:00
◇秋田市土崎港中央六丁目16番30号　☎018-845-0572

秋田市観光案内所（秋田駅構内） ☎018-832-7941
（財）秋田観光コンベンション協会 ☎018-824-8686

編集・発行：秋田市教育委員会 文化振興室
秋田市山王二丁目1番53号　山王21ビル4階
電話番号 018-866-2246　FAX番号 018-866-2252
協　　力：土崎港歴史勉強會
印　　刷：秋田活版印刷株式会社
イ ラ ス ト：小西　由紀子
発　行　日：平成24年3月（平成28年2月改訂）

土崎の歴史と地名の由来

秋田市土崎地区は、秋田運河の河口に位置する港町です。中世は安東氏の居城「湊城」として、藩政期は北前船も寄港する秋田藩城下町の外港「土崎湊」として栄えました。町民には問屋・小宿や、交易・廻船類の職が多く、港町の繁盛を支えていました。

昭和13年に雄物川放水路が通される以前は、雄物川の河口は土崎にありました。「土崎」という地名の由来は、高清水・寺内丘陵の北の端で雄物川に臨む地形に基づくと考えられています。現在は一般的に土崎港と称しますが、「土浦」という呼び名もあったとされ、雄物川河口の砂浜に起因する地名と言われています。

安東氏の居城「湊城」

「湊城」とは、室町時代に安東氏が築いた居城です。現在は城跡として残るのみですが、土崎神明社を中心として、東西方向に約500m、南北方向に約420mに広がっていたと考えられています。当時、土崎地区とその周辺地域は「秋田湊」と呼ばれており、室町時代末に成立した日本最古の海洋法規集『廻船式目』に、日本の十大港湾「三津七湊」の一つにあげられる有名な湊です。安東氏は、この「秋田湊」を拠点として活躍しました。

秋田市教育委員会の発掘調査により、「湊城」中心部から15世紀末頃の遺物が出土しました。また、安東実季が行った慶長4～6年（1599～1601）の湊城大改修の痕跡と考えられる遺構も確認されています。土崎地区は、安東氏を語る上で、貴重な埋蔵文化財が眠っている地域です。

土崎神明社祭の曳山行事

土崎の鎮守・土崎神明社の例祭として、毎年7月20日・21日に行われ、400年近い歴史を持つ曳山行事。奉納される曳山の台数は年によって違いますが、20台前後で街中を練り歩きます。また、曳山の運行途中で曳山を止めて披露される「秋田音頭」や「みなと小唄」などの踊りは、多くの見物客を楽しませます。

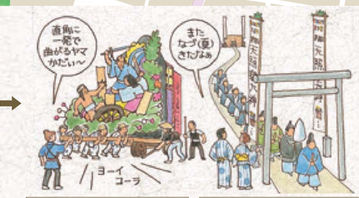
土崎神明社祭の曳山行事は、神迎えのさまざまな行事と風流の様相を色濃く残すとともに、わが国の山車の変遷過程などを知ることのできる地域性豊かな夏祭りは極めて貴重であるとして、平成9年に国の重要無形民俗文化財に指定されました。

マップの下にあるイラストは、土崎神明社祭の流れを表現したものです。イラストの中の人が「話しているコメント」は、ワークショップで土崎の方にインタビューをして聴き取ったコメントです。

土崎神明社祭の曳山行事の2日間

曳山の奉納

7月20日　昼　土崎神明社
各町内の曳山が土崎神明社に奉納され、曳山関係者が参拝します。曳山が次々と神明社に集まる光景は圧巻です。



振り棒　**奉幣の神事**

ハンドルもブレーキもない曳山は、振り棒の技で自在に動き、曲がります。7月20日午後、五十嵐記念病院前の交差点では、90度回転する曳山が見られます。

7月21日　朝　土崎神明社
御分霊が宿る幣束を、大会所から取り出し、白布をかけて、例祭が行われる神明社に届けます。

御旅所祭

7月21日　昼　鮫保町の御旅所
各町内を出発した曳山が、鮫保町の御旅所に集まり、道案内の猿田彦に導かれた神輿渡御行列を迎えます。高台の上では、大勢の見物人が見守る中、浦安の舞や祝詞奏上が執り行われます。

御旅所の曳山

7月21日　昼　鮫保町の御旅所
各町内の曳山が一堂にそろう旅所は、曳山そのものを見て楽しむ絶好のチャンスです。御旅所祭を終えた神輿が相染町へ向かった後、曳山も順に出発していきます。

御幸曳山

7月21日　昼　本町通りなど
曳山が神輿とともに相染町の御旅所を目指します。勇壮な曳山が本町通りを巡行します。

囃子・踊り

この曳山行事の囃子は、「港ばやし」と呼ばれています。土崎の港ばやしには、現在「寄せ太鼓」「湊ばやし」「あいや節」「湊剣ばやし」「加相ばやし」があります。

祭りの華となり、多くの見物客を楽しませる踊りは、曳山の運行途中に止めて披露されます。なかでも「秋田音頭」は古くから踊っており、多くの人に親しまれています。

戻り曳山

7月21日　夜　各町内
相染町に到着した曳山は、夜、それぞれの町内に向い出発します。拍子木をもった音頭取りが祭りを盛り上げ、曳子はすべての力を振り絞って曳山を曳き、声を張り上げます。

① 秋田県最初の火力発電所跡

明治34年に、近江谷英次が秋田電灯会社を設立し、この地に火力発電所を建設しました。燃料は旭川油田産出の石油を用い、秋田県最初の電力供給を開始しました。当初の供給範囲は、土崎柳町新地、大工町、通町、茶町、大町など14町でしたが、初めはわずか70灯ほどであったと伝えられています。

② 嶺梅院

秋田山内松原の山中にあった嶺梅院の始まりでる庵を、安永8年（1779）に、土崎湊へ移築して開山したとされています。敷地内には、中国発祥の魔除けの石標「石敢当」があります。県内で数十基しか確認されていない石敢当の一つです。また敷地内の弁天堂の前には、北前船で運ばれてきた出雲石と呼ばれる砂岩でできた灯籠があります。

③ 見性寺

慶長7年(1602)に、佐竹義宣が秋田へ転封するにあたり、随伴してきた宇垣美濃守十蔵秀行が、土崎湊に草庵を結び、戦没者の霊を弔ったと言われています。これが見性寺の始まりです。当初は下酒田町東裏側に創建されましたが、数えきれないほどの火災に遭遇し、大正2年に現在地に移ったとされています。現在地には法興寺がありましたが、天明元年（1781）建立の楼門のみを残し、山形へ移りました。この楼門は秋田市三楼門の一つと称されていました。

④ 金刀比羅神社

社伝によると、宝暦元年（1751）に土崎の沖合いでシケに遭った船頭が、海神の導きにより無事入港することができました。その折、積荷の中にあった神面をご神体とし、若狭国西津の船主・古川谷嘉太夫が、讃岐国金比羅宮の御祭神である大物主命を勧請して、土崎港に1社を造営したのが創祀と言われています。境内には廻船問屋の間杉五郎八の句碑や、松田酒屋さんの鏡絵と同じ左官屋さん（秋田谷金治氏）が作製した額をつけた鳥居があります。格天井が美しい社殿の中には、笏谷石で作られた狛犬がひっそりたたずんでいます。

⑤ 金刀比羅神社石製狛犬

17世紀前半に製作されたと推定されるこの石製狛犬は、福井県足羽山山麓でのみ産出される通称・笏谷石で作られています。笏谷石の狛犬は日本海海運によって各地に運ばれており、日本海および琵琶湖沿岸の各地に点在しています。秋田県内では、男鹿市赤神神社、由利本荘市八幡神社、秋田市藤倉神社にも類似の石製狛犬が所蔵されています。おかっぱ状のたてがみが可愛らしい金刀比羅神社石製狛犬は、16世紀以降の日本海海運の歴史を知る上でも貴重です。県指定有形文化財（普段は公開されておりません）。

⑥ 石造宮殿

嘉永2年（1849）に造立された石造宮殿は、全体が男鹿石製で、内部にはご本尊の日蓮上人石像が安置されています。この石像は、土崎の海中から出現したとされ、このことから寶城院を湧出山と号したと伝えられています。木製宮殿の形式を石造で忠実に模した近世の石製宮殿は、県内では類例が少なく貴重なことから、平成15年に秋田市指定有形文化財に指定されました（普段は公開されておりません）。

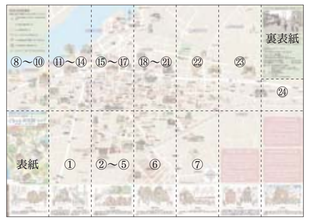
⑦ 土崎図書館

土崎図書館の歴史は古く、明治35年に南秋田郡立図書館として開館しました。現在の建物は平成3年に完成し、港町らしく大型船をイメージして建てられました。玄関前には、土崎で発行された雑誌「種蒔く人」の表紙を拡大した顕彰碑があり、館内には「種蒔く人資料室」が設置されています。

【種蒔く人とは】
大正10年、土崎で発行した雑誌。プロレタリア文学の先駆的役割を果たすことのみならず、革新運動の思想的・文化的広がりを持ちました。その精神は、人類愛・反戦・平和への希求などでした。中心となって活動したのは、土崎小学校時代の同級生、小牧近江、金子洋文、今野賢三でした。

※解説文についている番号は、マップ表面のイラストについている番号に対応しています。

番号の位置（マップ表面）



⑧ 穀保町の御旅所

毎年7月21日に、土崎神明社例祭の御旅所祭が行われる場所。曳山行事では、町の南の穀保町と北の相染町で御旅所祭が行われます。各町内の曳山が一堂にそろう御旅所は、曳山そのものを見て楽しむ絶好の機会です。

敷地内にある「回国供養塔」や「至北山吹や　池中瀧の星あがり」と書かれた石碑は、海運業で北に仕事に来て、帰郷できなかった人たちを供養したものと思われます。

⑨ 虚空蔵尊堂

旧土崎湊町の最南端に位置し、このあたりは眺望が良く土崎湊の名所だったそう。虚空蔵尊堂は、穀保町が開かれた万治3年（1660）、同町に蔵宿をもつ問屋・小宿によって勧請されました。

敷地内には、船乗りたちが目印にする灯台の役割を果たした石灯籠や百度石、江戸時代の水準点などがあります。敷地の入り口にある手水鉢は、北前船の船乗りたちが寄贈したもので、大きな自然石を使用しています。手水鉢に架けられている屋根は低いので、「頭上注意」！

⑩ 地蔵院

真言宗智山派地蔵院は、虚空蔵尊堂の別当寺として同時期に建立されました。向かいの建物には、雄物川を流れてきたとされる木造の仁王像の仏頭や手足が祀られています。いったいどこから流れてきて、誰が拾ったのでしょうか？

⑪ 船着き場跡の石段

【土崎の雄物川】
かつて雄物川の河口は、土崎湊（秋田港）内にありました。しかし洪水防止のため、大正から昭和にかけて雄物川の大改修が行われ、新たな放水路が昭和13年に河辺郡新屋町（現在の秋田市勝平地区）に造られました。旧雄物川は秋田運河となり、水位が下がって新たに生じた土地は開拓され、住宅地や工業地帯となりました。今でも土崎地区の御蔵町近辺では、船着き場跡など雄物川が流れていた頃の名残があちらこちらに見られます。

⑫ 旧塩乃湯

明治42年に、土崎港に着く船舶を相手に塩を卸す「能吉組」が作られ、その副業として「塩乃湯」の屋号で銭湯が始まりました。現在の建物は、大正12年の土崎大火で焼失した翌年に建てられたものです。脱衣所の天井には、ハイカラなレリーフが残っています。

⑬ 多聞院

多聞院は、土崎湊の日本海を一望できる小高い丘に、貞観2年（860）～3年頃に開創されました。敷地内に北前船のいかりが置かれていたり、本堂に北前船の部材で作られた扁額が飾られていたりと、江戸時代の土崎湊を感じられるお寺です。

⑭ 愛宕神社

永享10年（1438）に、安東康季が建立したと伝えられる神社。当時の土崎地域のなかでも標高が高い場所に建てられたと考えられます。鎮火・防火の神を祀る神社として鎮座していましたが、仏僧が入ったことにともなって安置した地蔵菩薩を「勝利地蔵」と呼んで武運の神として祀りました。地元では「愛宕さん」の愛称で親しまれています。また境内には、愛徳稲荷神社も鎮座しています。

【土崎のふぐ（土崎飲食業組合連合会ふぐ産直部会）】
秋田産のふぐは、冷たい日本海に揉まれて成長が遅い分、味が深く、身が引き締まっていると言われています。土崎地区では、「秋田産の北限天然ふぐ」を食べられるお店がいくつかあります。
土崎飲食業組合連合会ふぐ産直部会加盟店で毎年6月と10月に「ふぐ祭り」を開催しています。

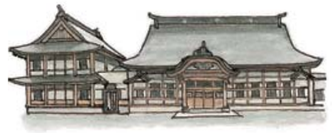
表面のふぐ　マークのお店です。
お問い合せ先…☎018-847-0189（酒肴旬彩 白帆）

⑮ 正光寺

浄土真宗大谷派の寺院。明治27年に、17世泰同の代に火災で焼失し、寺の由緒について詳細は不明です。敷地内には二尊堂という宝塔があり、中には釈尊像が収められています。

⑯ 蒼龍寺

現在の蒼龍寺が建つ場所は、安東氏の菩提寺である真言宗「湊福寺」の跡地です。慶長7年（1602）の国替えで、安東氏が常陸国に転封となり、湊福寺は無住となりました。しかし延宝元年（1673）頃、曹洞宗「蒼龍寺」として再興され、今日に至ります。本堂は平成20年に増改築され、新しく生まれ変わっています。敷地内には、鐘楼や保存樹のケヤキもあります。門でお地蔵さんが迎えてくれ、境内を入ってすぐのところに祀られている六地蔵には、カラフルな前掛けが付けられています。



⑰ 平和を祈る乙女の像

乙女の像は、土崎地区に11ある土崎空襲被爆者慰霊碑のうち、最初に建立された碑です。子どもを失った母親たちの思いを表現しています。

【土崎空襲とは】
終戦前夜の昭和20年8月14日の22時30分から翌15日の3時30分まで、土崎は米軍機による激しい爆撃を受けました。土崎空襲は、日本で最後の空襲となりました。

⑱ 舛屋薬局

文久2年（1862）創業。壁にデザインされた家印は、本家・那波三郎右衛門家の家印「一に三角」に「○」が付加されたもの。店内には当時の掛け看板がたくさん飾られています。

⑲ 西船寺

延宝8年（1680）に堺の廻船問屋・大西氏が、海難犠牲者の供養のため、一宇の建立を発願したのが西船寺の始まりとされています。明治末から大正にかけてチベットで仏教を修行した多田等観は、西船寺の生まれです。また、戦前を代表する歌手・東海林太郎も境内に眠っています。敷地内にある鐘突堂では、大晦日に鐘を突くことができます。

⑳ 正善院

正善院は、湊城主・安東氏の祈願所として、真言宗京都智山派に属する宥宗によって開山されたと言われていますが、明確な年代は不明です。敷地内には四国八十八箇所のお砂踏みもあります。

㉑ 土崎神明社

天照大神を祀る土崎湊の総鎮守。土崎の肝煎・川口惣治郎の氏神としていた神明様を、元和6年（1620）に湊城の跡地に遷座したことが始まりとされます。社殿は平成19年に改築され、とても綺麗です。境内には雪見灯籠や弾の形をした石碑などが点在しています。また末社も多く祀られており、大国主神社や西宮神社、稲荷神社、蕃匠神社などがあります。キティちゃん御守りにも注目！

㉒ 竈神社

寛永2年（1625）創建の神社で、竈を守護する神が祀られています。本殿の頭抜に彫られている龍の表情が素敵な、相染新田の鎮守社です。相染という名は、馬頭観音を祀る「宗善社」が由来と言われています。神社の前にある共同井戸は、かつて主婦たちのたまり場だったのではないでしょうか。境内には小さな公園が併設されているので、まちあるきのひとやすみにどうぞ。

㉓ 相染神明社

創建は不詳ですが、中世・安東氏の時代に創建されたと伝えられる歴史ある神社。元禄3年（1690）頃の穀丁、相染方面の飛砂で砂に埋もれ、社殿が失われてしまったため、現在地に遷座・再建したとされています。歴史を感じる境内には、たくさんの塚があります。

㉔ 有限会社松田（酒店）

昔ながらの看板が目をひく酒屋。敷地内には、平成18年まで、JRと賃貸借契約を結び、個人名を冠した全国でも珍しい踏切「松田踏切」がありました。明治期から100年余にわたり近隣住民が利用してきた、いわば"プライベート踏切"です。「100年間ありがとう」と書かれたタオルを作るなど、愛着のある踏切でした。同敷地内には稲荷さんもたたずんでいます。

土崎神明社祭の曳山行事 曳山所有町内の紋

- 穀保町
- 新城町
- 上酒田町
- 下酒田町
- 愛宕町
- 新柳町
- 幕洗川一区
- 幕洗川二区
- 幕洗川三区
- 南幕洗川
- 永覚町
- 加賀町
- 小鴨町
- 古川町
- 稲荷町
- 清水町一区
- 清水町二区
- 清水町三区
- 本山町
- 旭町一区
- 旭町二区
- 旭町三区
- 肴町
- 秣町
- 壹騎町一区
- 壹騎町二区
- 新町
- 将軍野一区
- 将軍野二区
- 将軍野三区
- 将軍野四区
- 将軍野五区
- 鉄道社宅
- 港北町
- 若松町
- 相染町